

# 高雄日本人学校の風

校長 高口和治

日曜日に奇美博物館に行ってきました。台湾の方に予約をしてもらって、その方と一緒にに行ってきました。以前から、美術館？何で博物館？と思っていたので、納得でした。古代エジプトの棺や鳥や鹿の剥製、化石、楽器、西洋美術品、武器と8階建てビル全部が博物館とその関係でした。学芸員らしき人が、ところどころで、ずいぶん親切に説明をしていました。奇美の創立者がバイオリン？の達人とか話をしていた人がいましたが、私自身は確かめていないので。そうであれば、楽器が多く展示されていたのもうなずけます。いわゆる「モナリザの微笑み」があったのですが、ルーブルに比べると大きいし、背景が違う気がするし、さらに、以前本には似たような絵が何枚もあると書いてあるし。専門でないので、自信がありません。

## 2月14日(火)

全校での卒業式練習が始まりました。さすがに、卒業生はぴりっとしていました。小学生は、特に高学年は練習の意義もよく捉えていた雰囲気でした。新潟でも中学校の校長として、小学校の入学式、卒業式に出ることもあります。足がぶらぶらしている子ども、興味津々であちこち見回している子どもと様々です。指導をしていないわけではないと言っているので、発達段階なのでしょう。バンコク日本人学校でも新潟でもここでも、日本式卒業式という意味では、ほぼ同じ雰囲気です。凜とした雰囲気を出したいものです。台湾の卒業式は、まったく違いました。式は式なのですが、私達がイメージしているのとちがって、ずいぶんくだけていました。どちらがいいというものではないでしょう。またまた県によって違うことを発見です。新潟では、リハーサルでも練習でも校長は一切壇上にのぼらないのです。30年間そんな様子を見たことがありませんし、自分が校長のときもそんな経験はありません。他の先生に聞いたら、どうもそんなのは新潟だけらしいのです。(考えてみれば、何もしないというのも変ですね。それが当たり前になっていましたから。)

## 2月15日(水)

小学部1年の中国語の授業をのぞきに行きました。元気に授業をしていました。動物の名前を使って「これは、なにになにです。これは、なにになにではありません。」という文型をやっていました。授業の後半は、お父さん、お母さんとか、家族の呼び方について覚えるようにしていました。「爸爸 媽媽 哥哥 姊姊 妹妹 弟弟 爺爺 奶奶」という単語です。こどもたちの多くは、1回練習しただけで、言えてしまうのです。私もみんなが言った後に当てられるのですが、つい紙をみてしまいます。さらに、日本語の漢字の読みがこ

びりついているせいか、おじいさんは、「じ　じ」と読んでしまいます。「いえ　いえ」とは、なかなか覚えられません。

来週は、この単語やこれまで学習したことを基に

「我們家有( )個人」

「哥哥喜歡( )姊姊喜歡( )」

というように授業が進んでいくようです。

## 2月16日(木)

卒業式の前行が行われました。卒業生は引き締まった顔をしていました。送る側も真剣に取り組んでいます。

4時間目には、卒業式に向けての準備を行いました。式場づくりは、小学部5、6年、中学部1、2年で行いました。「校長先生、これまっすぐですか？」と質問。赤い長いカーペットを1人で頑張っているやろうとしていました。見かねた他の子どもが、別の仕事をしていたのですが、途中で直していました。卒業生は卒業生で、今、間借りしている図書室の窓を一所懸命きれいにしていました。

## 2月17日(金)

校門を入ったすぐ左にあるガジュマルの木の葉が、うすい葉に入れ替わっています。同じく、中庭のゴムの木も葉をほとんど落としました。池のまわりの垣根も新しい葉がずいぶん出てきています。春なのでしょう。自分の身体からは季節がよく感じられなく困っています。新潟だと、冬になる時に、においがします。冬になるとまた違うにおいなのです。春になるときは、光がまばゆく、そして、きりっとした光になります。夏も暑いだけでなく、あの蝉の音と暑さが合わさります。秋になるときは、真夏から一気に秋になるのでしょうか。肌を感じる冷たさが心地よいのです。見た目ほとんどぼが秋になる前、そして、秋になってからみることができます。高雄でも、きっと、五感に触れるなにかがあると思うのですが、今は、???です。暑いか寒いかくらいで、光もおいもなんだか季節は感じないのです。最近、朝明けるのが少しはやくなった気はします。

この原稿を書いているときは、まだ、実施していないのですが、今日、3送会が実施されます。以前、練習の時の歌声が響いていました。

月曜日は、中学部卒業証書授与式です。新しい門出を祝いたいものです。自分の中学校の卒業式は覚えています。また、担任としては、4回だけしか卒業生を送り出したことがないので、これも、いろんな場面を覚えています。学年主任とも違う感じ。もちろん管理職になってしまうと、見守るしかなく、少し、さみしいのです。

(次号につづく)